

ベトナム溶接研究会 第12回研究会(ハイブリッド開催)

勝又 美穂子
グローバル D&I 推進室 准教授

2024年7月24日(水)、ベトナム日本商工会議所(JCCI)の会議室を会場に(ハノイ市)、オンラインとのハイブリッドで第12回ベトナム溶接研究会を開催しました。今回は会場及びオンラインでの参加を合わせると、研究会としてはこれまでで最も多くの方にご参加いただき、ハノイ市、ホーチミン市、シンガポール、日本等から約60名の皆様にお集まりいただきました。今回の研究会は企業講演1件、研究講演1件の2本立てで開催しました。

研究会開会は大阪大学理事・副学長、同研究会会長、田中 学教授よりご挨拶をいただきました。開会の挨拶に続き、企業講演は Vung Ang II Thermal Power LLC (VAPCO)の福島 豪社長よりご講演いただきました。同火力発電事業は三菱商事を始め、日本及び韓国の電力会社等が連携して推進する事業です。講演では、ベトナムにおける電力供給の現状とベトナム政府の電力供給計画を含んだ見通しの他、実際に同事業が経験されたベトナム政府や関係機関との長年にわたる調整背景等が紹介されました。更に、同発電所が採用する超々臨界圧発電に耐えうる高圧パイプの溶接プロセスの他、発電所建設と並行して同事業が進める地域貢献活動や地域住民との関係構築活動についても紹介され、ベトナムの発展を支える大規模な電力事業の多様な側面を共有いただきました。同発電所が稼働すれば、ベトナム中部最大都市であるダナン市の電力需要の約2倍の電力を供給できるとのことで、経済発展に伴う更なる電力不足が懸念される北部地域への送電にも大きな期待が寄せられます。

2つ目の講演となった、学術研究講演では、Le Quy Don 大学の Dr. Tran Van Chau 研究員より、”Laser directed deposition at microscale”と題してご講演いただきました。講演では、レーザーを金属粉に照射し、電子回路内等で利用する微細な電線の造形技術について紹介されました。今後は照射レーザーの微細化を更に進め、銅の金属粉等を用いたより微細な電線の造形に取り組みたいとのことでした。ベトナムではレーザー関連の研究設備を備える研究所や、同研究に取り組む研究者が少ない中、Dr. Chau の研究は同国においても最先端であると言えます。ハノイ工科大学内に開設した「接合科学研究所 HUST-UOsaka」においても今後レーザー発振器及びレーザー溶接機を導入予定であり、Dr.Chau の研究チームとの研究連携も期待されます。

閉会のご挨拶では研究会副会長、JFE スチールベトナムの芳木 泰正社長より、ベトナム目下の経済状況、鋼材市場動向、及び同研究会の今後の活動予定等についてお話いただきました。

本年度中は後2回ほど研究会開催を予定しています。溶接・接合技術に限らず、現地にて活動する企業様にとって有益な情報を共に学ばせていただく場となるよう、今後も積極的に活動予定です。また、HUST-UOsaka では本年11月にベトナム初となる日本溶接協会認証の「溶接管理技術者資格講習及び試験」をハノイで実施予定です。

今後共、研究会の活動へ皆様のご理解とご支援を賜りますよう、宜しく願い申し上げます。

(次ページ写真)



福島氏ご講演の様子



Dr. Chau ご講演の様子



研究会会場の様子



会場ご参加者との集合写真